

第14回市川市高齢者虐待防止研修(養介護施設従事者等向け) アンケート集計結果

1. 印象に残った内容(一部抜粋) ※こちらの内容は、一部抜粋して掲載しております。

(1)『高齢者虐待を起こさない視点を持つために』について

高齢者虐待の発生状況の資料からも年齢や専門性に関係なく、誰でも起こりうることだと改めて認識し、日頃からの勉強会や研修が大事だと感じた。また、不適切な声掛けなどは聞き流されてしまうこともあるため、スタッフ間で注意しあえる環境作りや接遇面についての研修も今後行っていきたい。
高齢者虐待には五種類あったことを知った。それらはどれも重大な過失でやってはならない。利用者との普段からコミュニケーションで信頼関係を築くことが大切だと思いました。
高齢者虐待は年齢関係なく幅広い年齢層で起きていること。高齢者虐待が起きる要因として最も多いのが職員の虐待や権利擁護・身体拘束に関する知識・意識の不足ということ。
尊厳を守るという視点を日常的に持つことが重要。また、利用者の行動の背景を理解し、職員同士が気づきを共有できる環境作りをすることが虐待を未然に防ぐことに繋がる。
令和5年の養介護施設従事者による虐待に関する情報を見て、若い人による虐待が多いと思っていたが40代～60歳以上が45%を超えていたことに驚いた。虐待の件数も多く、きっと統計に表れていない虐待も数多くあるんだろうと感じた。
介護職員が「虐待をするつもりがなくても、結果的に虐待になる場合がある」という点が特に印象に残りました。本人の意思を無視した全介助や、不必要な身体拘束、何気ない言葉かけが心理的虐待に該当することもあり、支援のあり方を根本から見直す必要があると感じました。

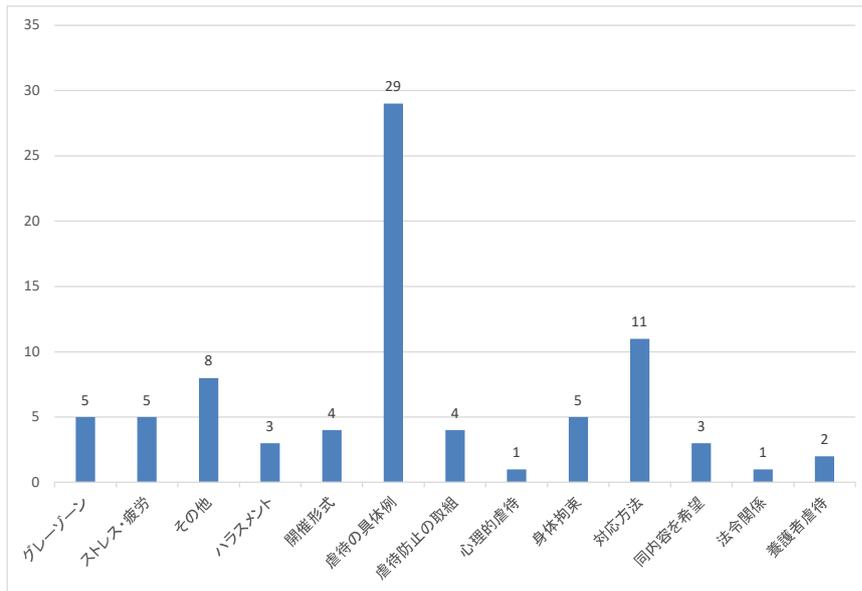
(2)『不適切な声掛けから始まる虐待の芽 居宅サービス事業従事者編』について

不適切な声かけについて、実際にグループワーク形式で行う形式が印象に残りました。それによりお互いの声かけの傾向や癖について気付いた部分話し合い、それをどのように言い換えればよいかを検討する事ができました。
利用者の意思決定を尊重することは当たり前であるが、それが誘導的になっていないか(「お風呂に入りたいですよね?」「運動した方がいいですよ?」)、訴えを軽視していないか今一度注意し、意思決定支援を行ってほしい。
不適切な声掛けから始まる虐待の芽で、声掛けの例で「みなさん、やっていますよ」会話の中で何気なく返答することがありました。判断を強要することになり、本人がどう思うのか意思確認、意思決定が大事なのだと再確認できた。
現場における不適切な発言について学習しました。「訴えの軽視や意思決定支援の形骸化につながり、ケアの質の低下」とありました。普段の何気ない会話もついても、介護のプロとしての意識を持ち、ご利用者の意志を汲み取り、安心安全なサービス提供を心掛けていきたいです。
「○○ちゃん」→「○○さん(呼び方の希望を確認)」 介護者は親しみを込めてちゃん付で呼んでいるつもりでも、本人が不快に感じることもある、と言ったことを認識しないとイケない。
「不適切な声かけ」に関しては何度聞いてもその都度、印象として残ります。利用者・入居者と馴染みの関係ができてくると最初に乱れてくる部分だと思いますので、なぜ利用者・入居者は不適切な声かけを受け入れざるを得ないのか、なぜ職員は受け入れてもらっていると勘違いするのか、を皆で考えたいな、と思います。

(3)『身体拘束“ゼロ”に近づく実践 養介護施設従事者編』について

身体拘束について3原則や代表的な例の講義を受けて、実際に高齢者施設で働いている職員と一緒に課題についてグループワークを行えた事が普段在宅で勤務している者として参考になりました。アセスメントをしっかり行うという項目が施設でも在宅でも共通して大切な事だと感じ印象に残りました。
身体拘束は、一度してしまうと介護者は多分案だろうと思います。でも、自分が拘束される事を想像すると、非常に辛いことだと思うので、切迫性、非代替性、一時性を常に考え、本当に拘束が必要なのか、何か工夫はできないか考える必要があると思いました。
現状、施設では身体拘束事業はございませんが、講義内容にあった個人判断は違反、チームで考える必要性の大切さは、改めて勉強になりました。安全確保と自由制限は常に難しい問題と捉えています、少しでもPCCの意識を高めて、より良い介護を施設全体で目指せればと感じました。
「BPSDはニーズの表現」というワードが印象に残った。認知症が進行していると表面的に受け止めるのではなく、本人が「～したいのではないか」「～と思っているのではないか」と推測し、思いを汲み取ることが利用者の尊厳を守ることに繋がっていくと学んだ。
「身体拘束をする前に考える」を合言葉にする。重要なのは、みんなで協力しあい、経験を共有し、改善点を見つけて、より良い介護環境を作っていくこと。忘れてはいけないと思いました。
服薬管理の例がとても為になりました。お薬の管理は、間違いがあると健康を損なう可能性があるため、間違いがないように職員が管理するのは一見正しいようですが、利用者の状況を正しく見極め、自主的な欲を損なわないようにすることは大切ですし、とてもセンシティブな問題になるので、観察や言動を見極める大切さがよくわかりました。

## 2. 来年度の虐待防止研修にて取り上げてほしい内容



※アンケートの回答内容をもとに、大まかに分類分けをしております。

### 3. 感想等 ※こちらの内容は、一部抜粋して掲載しております。

<p>動画が基礎編や応用編などに分かれていてとてもよかったです。 またスタッフにも共有しやすいように(全員で参加や視聴は難しいので)言い換え参考例などの資料はとてもありがたいです。 スライドも到達目標やこの研修のねらいなどを先に話していただき、ここに効きますよーといって体操するような感じでより自分のものにしていくことが出来るともよかったです。グループディスカッションや他の方の意見が聞けず残念な部分もありますが、動画視聴ですと自分のスピード(倍速など)で聞けてとてもありがたいです。</p>
<p>利用者様の生活の質の向上を追求する姿勢を職員1人ひとりにまで浸透させ、誰もが声を上げられる透明性と信頼に満ちた職場を築くことで、虐待や身体拘束を許さない尊厳あるケアが実現できればと思います。</p>
<p>虐待はダメだ！と知っていても、ストレスの多い介護現場はかなり大変です。ふと我に返って今、自分がしていることは虐待や拘束にあたってしまっているのではないかと客観的に考えられるよい機会を得られました。</p>
<p>高齢者虐待についてわかっているつもりになっている事がある。だからこそ振り返る事、再認識させる事が必要です。とても大事なテーマだと思います。</p>
<p>虐待防止には、職場の雰囲気コミュニケーションが大切だと思う。お互いにフォローし合えるような職場だったら、孤独な介護にならず、風通しの良い職場作りができるのではないかと思います。</p>
<p>様々な場面で代替案が登場し参考になりました。 一方で、代替案には設備面や人員面も含めた、介護職員個々の意識向上では限界のある問題も多く、現実と理想には隔たりがあると感じたことも事実です。 根本的な問題としては、やはり介護保険システムの大幅な見直し(特に賃金に関わる介護報酬面)で介護福祉の職場が魅力的な環境であることを、特に若い世代に認知させることが、様々な問題を解決する最大の要因であると感じました。</p>
<p>身体的な虐待でなくとも、不適切な声掛けから利用者の尊厳が傷つけられる状況が生まれてくる事を理解し、日々の関わり合いにおいて常に留意したいと思いました。</p>
<p>ロールプレイで他者と意見を交わすと新しい視点の発見があったり、新鮮でした。 ただ少数の事業所や部署では難しいのかな、とも感じました。</p>
<p>今後入社予定の社員にも見せられる様にアーカイブを残してほしい。</p>
<p>サービス事業者側から利用者へ伝えたいことを、言い換える表現を使うことがいかに大切かということ、そしてその内容が利用者の自己決定を促し、それは利用者本人の尊厳の保持につながることを、今後の支援においても十分に活用していきたいと思った。</p>
<p>日頃より大変お世話になりありがとうございます。研修等には積極的に参加したいと思っていますので、今回の研修期間延長はとても助かりました。今後ともよろしくお願い致します。</p>
<p>利用者様からの暴言・暴力が多くなってきているため職員のストレスも増大していると思う。退所させたところで次の利用者様も同様に暴言・暴力があった場合の可能性も考えると対処の仕方が難しいと思う。</p>
<p>新しい取り組みは評価するが、何かを取り入れたら何かを削ってもらいたい。 サービス以外の業務量がこれ以上増えるのはきついです。</p>
<p>虐待の基礎はもう何度も別の研修でも聞いているところであり、そこはもういいのではないかと感じた。虐待研修もレベル分けしたほうがいいのかもしいかなと思う。</p>
<p>各自動画で見れるのは助かりますので、今後も配信お願い致します。</p>
<p>ご利用者様が安心して、気軽にコミュニケーションが、取れるように日頃から話しやすくなることで、ご利用者様や職員がお互いに不安なく過ごしていけることが大切と思いました。</p>
<p>毎年、受講させていただき再度確認する事が出来ております。これからも利用者様が安心安全で過ごしていただけますように努めてまいります。 ありがとうございました。</p>
<p>分かりやすく、実施する意欲ができました。 今まで、こういう利用者で自分に言い聞かせていましたが、解決方法を見いだせると認識しました。 有り難うございます。</p>
<p>食事を拒否される利用者様に対して、無理にでも食べていただきたい場面はあるのですが、それも虐待になってしまうのではないかと罪悪感を感じてしまうことがあります。 食事量が少なくなってしまうと、状態が悪くなる事がほとんどなので、食べていただきたい気持ちはあります。 栄養管理をしている職種として、無理なく食べられる食事が提供できないか、なぜ食べられないのか、日々のアセスメントが大事だと改めて感じました。</p>
<p>研修の企画等、ありがとうございます。 こういった研修への参加を重ねる事で、より良い施設作りに繋がっていきたいと思います。</p>
<p>もう少し短い動画の区切りになっていて、複数回に分けて実施できるといいなと感じました。</p>
<p>介護職の人の経験から失敗したこと成功したことを経験から知りたいです。</p>
<p>なかなかURLを読み取っても入れず、こちらでQRコードに直しています。 始めからQRコードにいただけると嬉しいです。</p>